

7. 「モモの樹体ジョイント仕立ての栽培管理マニュアル」の作成

1. 背景とねらい

モモの栽培には、熟練した経験に裏づけられた整枝・せん定等の精密な管理技術が必要です。そのため、技術の継承が進まず、栽培面積は年々減少しています。そこで、後継者、新規の生産者や雇用者でも、従来の仕立て法と比較し単純かつ省力的に高品質果実を生産できるモモの樹体ジョイント仕立て(図 1)を開発し、その栽培管理マニュアルを作成しました。なお、本研究の一部は、新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業によって実施しました。

2. 成果の内容

- 1) 育苗は、培養土に赤玉土を利用し、100cm で切返しを行い、ジベレリンペーストを 2 回処理し、副梢を 2 葉で摘心することで、本仕立て法に適した苗木が育成できます。
- 2) 棚は、T 字連結型の棚とすることで、従来の一文字形整枝の棚と比較し、資材費が削減でき、設置作業時間も短くなります。
- 3) 樹形は、主枝高 155cm、植栽間隔は樹間 1.6m、列間 3m を基本(図 2)とすることで、その場合定植 3 年目での成園化が見込め、従来の仕立て法と比較して早期に成園となります。
- 4) 従来の仕立て法と比較して、作業時間が短くなり、心拍数増加率が低くなる傾向があり、省力化と軽労化を図ることができます。
- 5) 以上の研究成果をとりまとめ、「モモの樹体ジョイント仕立ての栽培管理マニュアル」を作成しました(図 3)。

3. 利用上の留意点

- 1) 作成したマニュアルについては、果樹研究部において配布しますので、モモの樹体ジョイント仕立ての導入を検討する際には、果樹研究部にご相談ください。

(果樹研究部)

4. 具体的データ



図 1 定植 4 年目開花期のモモの樹体ジョイント仕立て(2013 年)

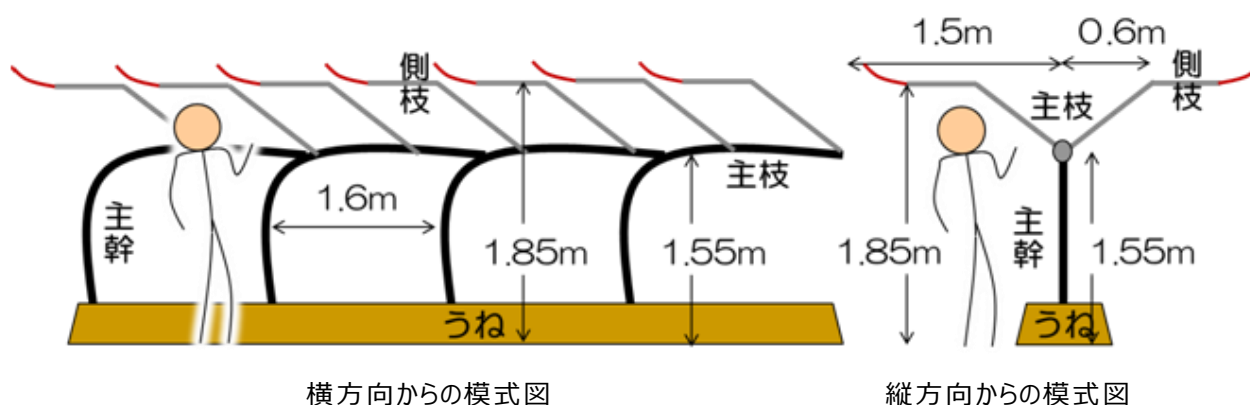


図 2 モモの樹体ジョイント仕立ての基本樹形 (2013 年)

項	目	ページ
I	はじめに	1
II	年次別管理作業の流れ	4
III	栽培を始めるための準備	5
IV	育苗	7
V	定植ほ場の準備	13
VI	棚の作成	16
VII	ほ場定植・引き倒し・接ぎ木	26
VIII	定植後の管理	32
IX	必要資材と経営試算	42
X	普及上の課題と今後の取り組みについて	44
XI	よくある質問とその回答	46
XII	参考資料	48

図 3 モモの樹体ジョイント仕立ての栽培管理マニュアルの目次 (2013 年)